

佳作

わたしのおじい

鹿児島県 中種子町立野間小学校一年 瀬口 明咲

きよねんの十一がつに、おとうとがうまれて、あたらしいかぞくがふえました。わたしとおなじ十一がつうまれで、なんだかとってもうれしかったです。わたしにはおねえちゃんがいるので、三にんきょうだいになりました。

わたしのおとうとがまだおかあさんのおなかのなかにいるとき、おかあさんがすこしだけにゆういんしていました。おうちには、おとうさんとおねえちゃんとおじいさんの三にんでした。おせんたく、おちやわんあらい、おそうじなど、おうちのおしごとがたくさんあって、とってもたいへんでした。おかあさんが、まいにち、ひとりでこんなにしごとをしていたんだとして、おどろきました。「たいへんだっただろうな、すごいなあ」とおもいました。おかあさんにあいたくて、なんどもでんわしました。

「おかあさんがいないあいだたいへんだけど、みんなでがんばってね。」

と、おかあさんは、やさしくはなしてくれました。とてもたいへんだったけど、おかあさんにしんぱいをかけたくなくて、おてつだいをいっしょうけんめいがんばりました。「おかあさんもおなかのあかちゃんどがんばっているから、わたしもがんばらないといけないなあ」とおもったからです。

あかちゃんがうまれてくるときは、おかあさんにともおなかがいなくてたいへんです。あかちゃんは、くらくてながいとんねるみたいなどころを、あかりをめざしてうまれてくるときいたことがありません。おかあさんとあかちゃんは、いっしょにがんばっているんだなあとおもいました。

わたしのおとうとは、あさにうまれました。うまれたばかりのおとうとは、ちいさくてとてもかわいかったです。はなしかけてみると、すやすやねむってばかりでした。でも、ときどきびくっとしたりめをあげたりして、あかちゃんはとってもかわいいです。おとうとがうまれてくるとき、おかあさんは、「おとうとにたくさんはなしかけていたそうです。」
「あんしんしてこっちにおいでね。みんなまってい

るからね。だいじょうぶだよ。」

ずっとずっと、はなしかけていたそうです。あたらしいいのちがうまれてくるって、すごいことだなあとおもいました。

おとうとがうまれて五にんかぞくになりました。ないたりわらったり、まいにちにぎやかです。ことしのなつやすみは、おとうととたくさんあそびました。わたしのだっこもきにいってしてくれます。おとうとがにこにこしている、わたしもしあわせなきもちになります。うまれてきてくれてありがとうございます。たいせつないのちをだいじにしたいです。じぶんやひとのいのちもだいじにしたいです。

きょうだい三にん、いつまでもなかよくしていきましょう。